

墨田区立本所中学校

－3年間の流れをつくり、学習のねらいの深化を目指したカリキュラムの展開－

進路指導の目標

- 将来に対して夢や希望を持ち、目標に向かって努力する意欲・態度の育成を図る
- 自己理解を深めるとともに職業観を養い、主体的に進路を選択する能力の育成を図る
- 成就感、達成感を味あわせ、学校生活の意欲の向上を図る

「生きる力」を育むための「三つのステップ」

第1ステップ

地域の人を学校へ

授業や学校行事で
地域の人が講師になります

課題発見の仕方を教える

《気づき》

- 「学校を開く」基盤作りとなった。
- 地域の人を学校に招き、学校の教育活動に直接参加してもらうことからスタートした。(町会長、伝統工芸技術者、獣医、僧侶、青年会議所、育成委員、同友会、・・・)

《成果》

生徒たちは地域の方々の話を興味深く聞き、人生観・職業観などを学び、将来の生き方に期待をもった。さらに、講師の方に「一生懸命勉強し心と体を鍛えること、趣味や特技を伸ばすこと、友だちを大切にすること」など、学生時代に身に付けるべき有益な話をたくさん語っていただいた。

第2ステップ

地域に出て体験を

地域へ出て
多くの人と交流します

課題追求の仕方を教える

《追求》

- 「地域・社会を知る」(多くの方々の協力が必要な取組)
- 「生きる力」は、実際に体験して初めて身につく。その際、地域社会は最も効果のあがる身近な学習場所である。

《成果》

生徒は、第一ステップで学んだ各自の課題を解決するために、自分の学習計画に基づき地域にでかけ様々な体験活動(ボランティア活動、職業体験、体験入学等)を行い、その疑問や課題をさらに追究した。

多くの人との交流により、学習内容だけでなく言語活動、マナー、社会規範など社会生活上必要なスキルの習得も可能となった。

第3ステップ

地域とともに学習を

学習成果を発表し
地域の人とともに学習を深めます

課題の定着・深化

《深化・定着》

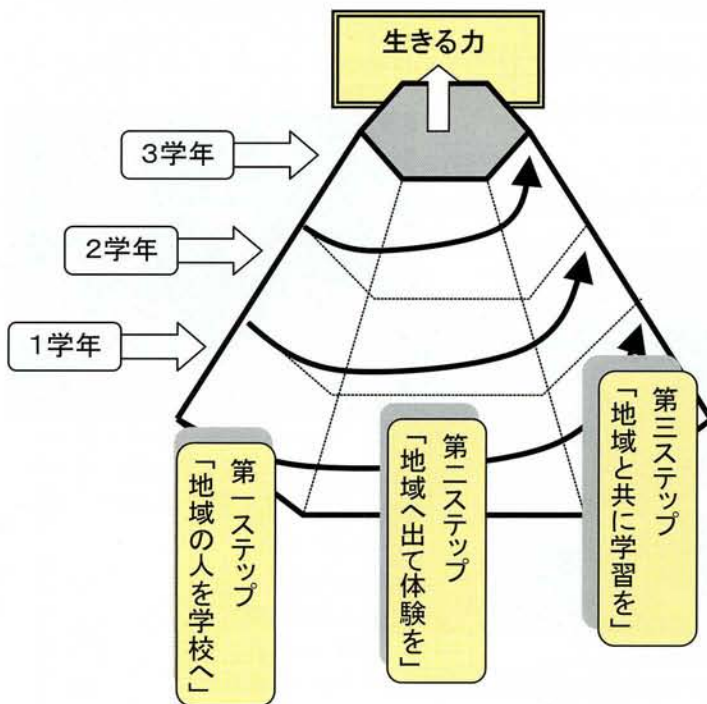
- 「地域との連携を深める」
(多くの人々が教育に参加し、かかわりを深める取組)

《成果》

生徒は発表することにより、学んだ体験や成果をまとめ、学び直し、学習を定着・深化させることができた。また、活動の中で表現力やコミュニケーション能力を培うとともに、他の人からも学び、自己の反省と新たな課題を発見することにも役立った。

発表会に地域の方にも参加して頂くことで、学校・家庭・地域の連携を深め、学校が地域教育力の向上に寄与し、地域の活性化にも役立った。

「三つのステップ」の繰り返しによる「学習のねらいの深化」



三つのステップは、学年を意味するものではなく、どの学年も、全体計画に基づき、それぞれのステップをスパイラルに取り入れながら、順次発展させ「生きる力」を育成する。

本所中学校の校木・校章が「柏」であり、教育のシンボルを「か（改革）・し（真理）・わ（和楽）」としている。こうしたことから、本所中学校の「総合的な学習の時間」を「かしわ学習」と呼んでいます。

第1ステップ：地域人を学校へ 総合的な学習の時間「かしわ学習」・全学年
経済界の方々を招いた公開授業

企業経営者の方々の話をじかに聞くことによって、社会や時代の流れを学び、働くことの意義や仕事の楽しさ、苦しさ、生きがいを知る。



講師の方々を出迎え、各教室へご案内。

経済同友会メンバーの方、11人が来校。

「子どもたちに夢や希望を持たせたい。」「大人の活力、魅力、すばらしさを見せたい。」との思いから、企業経営者の方々をお招きし、「これからの社会（世界）に必要な力、中学生時代に学んでおいて欲しいこと」を語っていただいた。

「今から努力しても間に合う、がんばろう。」と語りかける講師



耐震構造の模型を持参して建築原理を説明する講師。



第2ステップ：地域へ出て体験を 総合的な学習の時間「かしわ学習」・2年生
青年会議所（JC）の協力を得て実施した職場体験学習

地域で多くの人々と交流し、自ら体験することによって、大人の社会を知り、マナー、言語活動、社会規範などを身につけるとともに、自分の適性を考える。

事前の「マナー講習会」



現役の航空会社客室乗務員の方から「品物の渡し方」や「お辞儀の仕方」の指導を受ける。

職場体験学習



<レストラン>
コックさんの制服を着て、皿洗いを体験。



<リサイクル・ショップ>
古書の整理を体験。リサイクルの大切さを改めて感じた。

第1・2・3ステップ：地域とともに学習を 総合的な学習の時間「かしわ学習」・1年生
グローバルな企業の協力を得て実施した総合的な学習
「すみだの街のエジソンになろう！」

国際的な大手企業の社員（40人）のアドバイスを受けながら一緒に街に出かけ、「すみだの街に役立つ発明」を考える。

一週間前には、社員の方が来て、事前のオリエンテーションを行い、課題の発見の仕方を学び、各自の課題を探しておく。

街を探索：実際に働きかけて学ぶ。

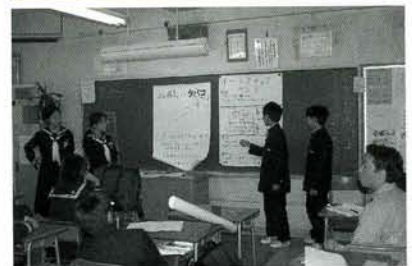


バスを待つ地域の人にもインタビューする。



発見した課題について、区役所に行って聞く。

発表会：プレゼンテーションの仕方を学ぶ。



まとめ：調べてきたことをまとめる。



※本所中学校の写真は「教育ジャーナル」（学習研究社編集部）からご提供いただきました。

「総合的な学習の時間」の柱を「進路指導」にした理由

- ①「総合的な学習の時間」の中の「自己の生き方を考える」というねらいと進路指導（生き方指導）の目的には共通するものがある。また、「総合的な学習の時間」の「問題の解決や探求活動」は、進路指導の中の体験重視、学び方の習得（調べ方、まとめ方、討論・発表の仕方）などスキルを身につける意味でも共通点がある。
- ②これまでの進路指導のために使う時間（特別活動）には制限があるが、「総合的な学習の時間」を使うことによって時間的にゆとりを持って行うことができる。
- ③「総合的な学習の時間」に位置づけることによって、進路指導にとどまることなく、発展的に様々な学習や活動に広がっていく可能性がある。

本所中学校では、墨田中学校の実践研究を参考にしながら総合的な学習の時間を展開している。

「総合的な学習の時間」3年間の流れ(例)

墨田区立墨田中学校 平成11年度研究紀要「ふれあい学習」より

